

JIA長野県クラブ51

社団法人 日本建築家協会

2001. 11. 1



JIA大会2001金沢（ワークショップ）



JIA大会2001金沢（作品展示会場）



9月17日の第2回まちづくり視察会では下諏訪町門前町を見学した。



アーキテクツガーデン2001に当クラブも写真パネルを出展した。



地域会におけるCPDの意義

新たな設計業界の方向性が迫られている状況の中で様々な経過を経て、当クラブでも本年度からCPD（継続職能研修）の本格的な取り組みがスタートしました。

CPDの意義については、JIAが目指す建築家資格制度の行方にも大いに関係あることはご承知の通りです。

JIAが目指す資格の目的は、あくまで市民や消費者が安心して建築の仕事を依頼できる建築のプロフェッショナルの存在を明らかにすることであると言って良いと思います。従って、CPDそのものも、市民や消費者の利益保護に向かって、どの様な努力を重ねているかのプロセスを情報開示しながら、分かりやすくしていくことも大切になります。

基本となるのは、CPDが建築家自身の資格維持と継続的向上が目的であるとしても、市民、消費者の側から見て納得のいく内容であることが望ましいと思います。

ややもすると、建築家資格やCPDを建築界の国際化として捉えている会員もあるでしょう。しかし、大多数は地方に根ざした建築家なのです。地域としての枠組で考えることも大変重要なことです。まずは当クラブ

副会長 高橋重徳

で実施しようとしている「シリーズ研修会」に会員が積極的に参加して自分自身を見つめ直し、地域の中での存在や役割を再認識し、さらに地域的特性の中で自分達の進路を見出してほしいと思います。

この様な時期にこそ、CPDを通じて謙虚な気持ちで地力をつけ、同時に私達の存在もアピールすることがいかに重要であるかに気付いてほしいと思います。

そうした意味で会報49号松下会長の巻頭文「CPDこそ生き残りの命綱」を再読して頂きたいと思います。

当クラブは、会員委員会を中心に各々の委員会がCPDを念頭にプログラムの実施に努力をしています。是非、会員の皆様の理解と協力をお願い致します。幸にして賛助会員の皆さんも賛助会サミット等を通じ、全国の中でも先進的な理解を頂ける方向にあります。正会員の皆さんへの奮起を望んでやみません。

こうしたCPDの努力の積み重ねが、私達の存在の意義を高め、地域社会で信頼される存在として生き残ることになり、結果として会員のメリットとして還元されるでしょう。



第1・2回まちづくり視察会に参加して

御子柴進

(株)建築研究所フォーラム

今年も、まちづくり委員会主催の「信州まちづくり視察会」が始まっています。その第1回(奈良井)と第2回(下諏訪)に参加してきましたので報告します。

第1回は8月29日(水)、木曽は樺川村の「奈良井宿」を7名の仲間とともに視察しました。この宿の保存と再生に取り組んでいる樺川村教育委員会の石井さんの案内で、一時は奈良井千軒というほど繁栄を誇った南北およそ1kmの宿場町を、3時間かけてじっくり見ることができました。木曽の宿場町の中で同じように保存再生が継続されている「馬籠」や「妻籠」のような完全主義(?)ではなく、この奈良井では、ある範囲までの柔らかい規制と補助金制度の中で「生活しながら保存する」という態度が貫かれています。保存の進むその家並みは、間口が狭く奥行の深い「出梁造り」で猿頭をあしらった鎧庇で逆さ釘形式という独特の表情を持っています。中村家旧宅、上問屋資料館等々、主な建物に目を止めながら家並みを楽しみ、宿場町の中ほどにある精米所を再生した画廊(川上さんの手がけたもの)で一服、なかなか見どころの多い「奈良井」でした。

続いて第2回は9月17日(月)、台風接近のため予定を変更しての「下諏訪」の視察。

立川和四郎富棟とその一党による諏訪大社、下社秋宮の前に集ったのは、会員、賛助会員合わせて20名近い大部隊でした。地元郷土史家の蟹江さんと士会の五味さんの案内で、秋宮から春宮、春宮から春宮大門、そして国道20号線にそって再び秋宮へと、およそ3kmの長道中、大部アゴの出た人もいたのでは…。秋宮から春宮にかけては、旧中山道の面影を拾いながらの散策でしたが、つい先月「奈良井」を目にしたばかりの私にとっては、ときれときれの印象がぬぐえませんでした。江戸後期、立川一党と覇を競った柴宮長左衛門の手になる春宮を見た後、下馬橋から春宮大門に向かう途中、(株)下諏訪倉庫さんの御厚意で、諏訪地方独特の「繭蔵」を、つぶさに見ることができました。

外部からは目にすることが多かった私ですが、実際に中に入るのはこれが初めて。「地震が来たらペシャンコですよ」と言いながらも、どこか誇らしげな案内役にうながされて階上まで…。製糸業華やかなりし頃の諏訪の活力と息づかいを感じることができました。

「視察会」はこの後、東信、北信の各所で続きます。



JIA大会200金沢に参加して

丸山幸弘

館KAN設計工房

10月11日(木)~13日(土)まで金沢市の金沢市民芸術村で行われました。ご存じの方もいると思いますが、大和紡績金沢工場の倉庫を再生した施設です。木造レンガ張り建築は5つのマルチ空間に造られ、さまざまな利用形態に対応できるようになっています。ただしパイプ椅子と木製ベンチは腰痛に応えます。大会式典は12日の午後からでしたので私は午前中デザインフォーラムに参加しました。

「21世紀型の住まいとは?」近畿支部建築デザイン委員会(出江寛委員長)主催のフォーラムは毎回開かれているようです。以前から噂は聞いていましたので参加するのが楽しみでした。沖縄、九州、四国、北陸支部の代表者が作品を発表し、その講評を皆で行う訳です。講評は「おべんちゃら」を言わない。「この建築はあかん」「いけづな建築やなあ~!」などと、なかなか厳しい講評です。この環境が近畿支部の建築に生かされていると思うと羨ましいような怖いような気がします。でも楽しかった。

午後、水野一郎大会実行委員長の開会宣言で大会式典が開催され、村尾JIA会長が挨拶、AIAアンダーソン会長等多くの来賓の方も参加され盛大に開催されました。また、JIA新人賞表彰式も併せて行われ、2部では上野千鶴子先生による基調講演が行われました。上野氏は「プライベート・コモン・パブリック」と題し、社会学者と建築家が「犬猿の仲」と言われている由縁、住空間と家族の関係など我々と違う考え方を話されました。後半のパネルディスカッションでは山出保金沢市長、新居千秋氏、芦原太郎氏が加わり、「コミュニティは変わるか」というテーマで討論されました。途中、空間帝国主義者(建築家)についてなどと脱線しましたが、大変楽しい討論会でした。

13日の午前中は保存部会・都市づくり推進会議が主催する「保存・再生で得たもの」というフォーラムに参加。保存・修復・再生・復元、様々な地域でその地域独自のやり方で行おう、そんな議論がされ、これも身になるフォーラムでした。ここで帰路についてしまいましたが、今年夏に参加させて頂いた熱海リフレッシュセミナーと一緒にになった(沖縄、徳島、福井、富山、帯広の方)にお会いできたのは大変嬉しかったです。「来年は沖縄で会いましょう!」と別れました。12、13日しか参加できませんでしたが、大変楽しく有意義な時間が持てました。



「浅間山、五感」

甘利享一
甘利享一建築設計舎

10月8日の曇りの朝、標高2000mの高峰高原山頂より浅間山山頂への登山を開始した。

森林の中を朝歩くのは何と爽やかな気分である。歩き始めて5分、熊笹と大きな石に囲まれた奥に光苔を発見、朝露に溢れ光を発している。なんという神秘的な光景だろう。森林を通り抜け坂道に差しかかると、背中に汗を感じ始める。登りつめると空が開けて眼前に雲が流れ山の景色が見え隠れし、視線を少し遠くに向けると小諸の街の風景が広がる。自然の雄大さを肌で感じる瞬間である。この場は通称「五竜の遠見」と言われている。これからは「草すべり」と言われる南傾斜の草面を一気に300m程滑り降りると「湯の平」と言われる草と木々に囲まれた平原に到着。一服し浅間山山頂を目指し登山開始。木々の間を通り抜けると緑が消え石だけの登山路が続く。火口から風に乗って流れてくる「イオウ」の臭いが鼻を突く。呼吸が荒くなり始める。20~30m歩いては立ち止まり、呼吸調整、イオウの臭いが鼻から喉元を突く。風が強まり寒さが身に応える。用意してきた冬物のジヤンパーを着込み山頂を目指す。やっとの思いで山頂へ到着。一仕事終えたという満足感だが、強風で立っている事が出来ない。晴れていれば火口の底、山頂からの360度の大パノラマが見渡せるはずだが残念。山頂で身をよせながら仲間が登ってくるのを15分程待つ。全員揃ったところで記念写真、早速退散。

登ってくる人と挨拶を交しながら200m程一気に下ると持病の右膝の関節が痛み始める。20分程下ると平らな場所に出た。岩とブルーベリーに囲まれたどこか楽園に来たような広大な地である。少々寒いがこの場で昼食とする。帰りは山の稜線沿いに帰るとことで意見統一。「Jバンド」という下から見上げるとロッククライミングを思わせる岩山を登り始める。又心臓が高なる。中腹まで登り下を見落すとブルーベリー畑が一面に広がりなんとも爽快。最初に行った留学生のデリック君が大きな岩の上で待っていた。後は稜線を登ったり下ったりの繰り返しで30分程歩いただろうか。最初に着いた「五竜の遠見」に到着。裏コースの道を選び大森林の中を30分程下ると平らな熊笹に囲まれた道に出る。少し歩くと足の痛みも薄れ、走りたい気分である。ようやく到着。

出發して到着まで8時間の道のり。人生山あり谷ありと言うが、人生を凝縮した8時間であった。



CPD単位申請をお忘れなく！

関邦則
副会長

今、私たちは実に真剣にCPDに取り組んでいる。

これはそもそも建築家資格の確立を目指す方針のなかで浮上してきたテーマである。それぞれの建築家にとって資格の獲得がゴールになるのではなく、その後も研鑽を続けて資格に伴う資質を維持していくなければ社会の信頼を得ることはできないという考え方に基づいている。その自己研鑽状況を単位という数字で示すことにより、社会に対するアカウンタビリティにしようというものである。逆に言えば、単位が不足している者は自己研鑽を十分に行ってないとされ、建築家資格を剥奪=JIAの会員でいられなくなるというしくみなので要注意である。

現在は試行期間であり、2002年度から正式にカウントが始まる。建築家資格そのものが目標としてしか位置付けられていない現時点の状況から言えばCPDの強制力は弱いが、近い将来、建築家という資格が単なる呼称ではなく職能を果たすための資質として認知されなければ非常に重要なものとなってくる。

今は情報化が促進され、建築設計監理を巡る諸制度も目まぐるしく変わりつつある。これからはその変化に対応していかないと取り残される。CPDもまさにそうした制度の一環として位置付けられるものと思う。

長野県クラブとしてはいち早くこの制度に反応した。すでに河野進副会長や大宇根弘司CPD運営委員長を招いて勉強会を開催した。そして本年度は会員委員会を中心となって認定プログラムを備え、単位取得の機会を準備している（下記スケジュール参照）。具体的に単位を取得するためにはJIAのCPD評議会が認定したプログラムを受けるか、個人的に建築見学や読書をしたり、他団体を含めた職能活動などに参加してもよい。ということは私たちの日常の仕事の中で行っている研鑽がCPD単位に置き換えるということになるので、それらを極め細かくカウントしていくべきとも言える。着実に仕事や団体活動をこなしていればほとんどクリアできるはずなので、申請を怠らないことである。

今後の認定プログラムは以下の通り。

11月27日（火）長野市「メルパルクNAGANO」

研修会 田中修一氏講演

12月7日（金）松本市

建築見学会（松本市美術館）、技術交流会・本音で語ろう会

1月23日（水）長野市「メルパルクNAGANO」

技術交流会

クラブインサイド

第1回まちづくり委員会 川上恵一

7月30日松本で開催。今年の活動として県内4地域のまちづくり視察会の開催とそのパネル作り。県の景観シンポと松本まちづくりフォーラムへの参加協力を決めた。これらの活動が「CPD」単位になるかも検討された。

第1・2回まちづくり視察会 川上恵一

第1回が8月29日に奈良井宿で、第2回が9月17日に下諏訪町で開催された。地元の方の説明を聞きながら、歴史と建築、住民と生活、それらの深い関わりとまちづくりの大切さを肌で痛感。賛助会員の参加は良かったが、今後は多くの会員の参加を期待したい。

第4回会員委員会 久保隆夫

8月29日開催。本格的始動に向け、「継続職能教育」(CPD)の具体的プログラムと内容について協議。事業を再編成し、一連の研修制度にする。全員参加を目指して、会員が参加しやすいしくみを模索しながら、11月27日「シリーズ研修会」からスタートすることが決まった。

第3回正副会長・委員長・賛助会長会

松下重雄

9月3日開催。地域サミット長野の受け入れについて会場、概要を話し合う。会員、賛助会員、事務所会員増強の動向を検討。今後の活動については、シリーズ研修会の方向づけ、忘年会・新年会に併せての技術交流会開催の件、文化講演会の講師早期決定の確認、あすなろ建築展との併催を協議。CPD年間プログラムなどが検討された。

第5回幹事会 中澤栄二

9月25日、松本市の下町会館で開催。クラブ報告、本部・支部報告の後、議事では会員動向、金沢大会参加、「地域サミット」の長野開催(11月27日)、アーキテクツガーデンパネルの出展などについて協議が行われた。

第10回文化講演会の講師候補については数名上がり、事業委員会で協議決定することとした。「愛と情熱の家づくり」vol2は参加者申し込みが30名を超えたので、近日中に説明会を開催する。

第120回本部理事会 出澤潔

9月28日近畿支部大会に併せ大阪錦業会館にて。報告事項22、審議事項3、協議事項2。建築設計資格制度に関する関係団体の考え方について協議。鬼頭先生も出席されCPDの本格実施に関し現状説明と意見交換。会員数の現状と会員増強の具体策の検討報告、会員種別と会費の抜本的見直し、検討組織立ち上げの提案など。

クラブアウトサイド

第4・5回支部教育委員会 市川英一

第4回は7月25日、第5回は8月30日に開催。継続事業である、カルチャーセンターとの共同見学会について、10月・11月開催日程の確認及びアテンドする委員の割り振りをしました。その他AG2001「建築家メモ展」と「大学院修士設計展」についての検討を行いました。

第5回アーキテクツガーデン2001実行委員会 上村保弘

9月17日開催。「アーキテクツガーデン2001」進行状況の確認を行った。「緑豊かなまちと建築」をメインテーマに10月23日から29日銀座周辺の7会場で色々なイベントが展開される。当クラブよりパネルを出展する。

第4回支部役員会 松下重雄

9月19日開催。支部関連の報告としては、アーキテクツガーデンの準備状況、支部ホームページ立ち上げの紹介と空白記事の依頼、CPD参加者リストの現況報告、銀座サッポロライオンの保存決定等。本部理事選挙、企画運営会議の報告、金沢大会の参加依頼、3項目の承認、建築相談有料化の是非等について熱心に協議された。

会員の皆様へお知らせ

(いよいよCPD認定プログラムが用意出来ました)

シリーズ研修会

日時 2001年11月27日(火) 16:00~18:00
会場 「メルパルクNAGANO」長野市鶴賀高畠752-8
講師 田中修一氏(千葉銀行相談役)
◇建築家のためのファイナンシャル・ビジネス
(お金のことをもっと知ろう)

CPD認定単位:2単位

日時 2001年12月7日(金)午後 松本市
◇①建築見学会「松本市美術館」
◇②技術交流会 ◇③本音で語ろう会
CPD認定単位 ①:1単位 ②:1.5単位 ③:1.5単位

新入会員紹介

正会員 中田利正(株)エイ・デザイン(塩尻市)
賛助会員 (株)INAX甲信支社長野営業所(長野市)
(株)インテルナ・ながの(埴科郡戸倉町)
長野ヤナセ(株)(長野市)

編集人	依田政司
発行人	松下重雄
発行所	JIA長野県クラブ
	長野市南長野妻科
	426-1
	長野県建築士会館内
TEL	026(232)3897
FAX	026(232)5303
作成	新建新聞社

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。